

第2回（仮称）彦根総合運動公園第1種陸上競技場建築検討懇話会 議事録

- 日時：平成28年7月1日（金）14:00～16:30
- 場所：滋賀県教育委員会室
- 出席委員（五十音順、敬称略）：
 - 下山 隆彦、中嶋 節子、藤本 英子、松岡 拓公雄（座長）
 - （欠席委員 今西 純一、濱崎 一志（副座長））
 - （事務局 宇野県民生活部管理監、スポーツ課員）
 - （彦根市 山根副市長ほか9名）
- 配付資料：別添のとおり

【議事録】

1. 開会

2. 説明事項

- ・事務局から競技場の施設規模等にかかる県の検討状況について【資料4】（P1）で説明。
- ・事務局から公園整備計画の一部変更（競技場位置を東側に移動、公園区域の拡大）について【資料4】（P26）で説明。

3. 審議事項

○景観等に配慮した競技場整備の方向性について

（1）屋根の架設範囲・照明設備の検討について

- ・事務局から【資料4】（P1～P28）を説明。3DVRでケースI～IVごとの景観イメージを表示。

（座長）

事務局から競技場周辺の景観や、想定している施設整備水準4案について説明をいただいた。第1回懇話会での委員からの要望に応じた説明であった。1つ目の議題として景観上望ましい屋根の架設範囲と照明設備について委員の皆様から意見をうかがいたい。

（委員）

先にJリーグに関する対応について説明があったが、競技場の施設規模は、従来どおり2万人規模とするのか、規模を縮小するのか決定しているのか。

（事務局）

4案を平等に検討している。周辺の景観や地域の生活環境への配慮を踏まえて決定する。

(委員)

2万人の場合のケースが1例しかないことが気にかかるが、各案平等に検討する点は了解した。

先ほど照明柱を設置した場合、遠景、中景からの景観において彦根城天守に照明柱が重なると説明があった。照明柱は無い方が良い。

低地からの景観では照明柱の有無による影響が大きいが、彦根城など高所からの景観では、屋根の面積やフィールドの色、座席がどれくらい見えるかの影響が大きい。

屋根が小さい方が事業費を抑えられるだろうが、上から見て座席が並んでいる光景が美しいのか疑問に感じる。

彦根城から見てどう見えるのかと、周辺の視点場から見てどう見えるのかで観点が変わってくる。屋根の架設範囲は狭い方がいいとは言えない。

先ほど松原湖橋や矢倉川橋からの景観について説明があったが、JR米原駅～JR彦根駅間の電車からどう見えるのか。JRは多数の利用者があり、電車から彦根城を見る機会も多いのではないかと。

(事務局)

JRからの景観についても調査したが、線路から距離が離れることや周辺の建物等で隠れることで競技場は見えないものと思われる。

(座長)

景観資料を見ると、競技場の位置が低いように感じる。事業敷地の標高は低いのか。資料の標高は高精度に作成されているのか。

(事務局)

標高は低いが、周囲の建物等により競技場が隠れている地点もある。3DVRで確認しても同様の結果となる。標高のデータは正確なものと考えている。

(委員)

【資料4】P24のケースIとケースIIの屋根形状の違いは何か。

(事務局)

当図はイメージ図として作成したものである。ケースIIのバックスタンド側の屋根は、照明設備を設置するため、フィールド側はメインスタンドの屋根と同じ高さであるが、後方の架設範囲が短いため、ケースIと形状が異なる。

(座長)

【資料4】 P20の断面図をご覧くださいればわかりやすいと思う。

(委員)

照明柱について、野球場の既存照明柱より大型の物がそびえ立つことは、周辺地域への影響が大きいので、施設内に照明設備を取り込める形状が良いと考える。

先の意見のとおり、上から見下ろした際には、フィールドや客席の色彩の影響が大きくなる。大阪の事例であるが、フィールドを人工芝にしたところ、強い緑色のため太陽光の反射で人工芝の緑が周囲に反射した事例がある。色彩については、素材の検討を含め十分な検討が必要。屋根に限らず内部にも十分配慮して検討すべき。

今回の資料で周辺の景観について整理しており、この中で屋根について検討すればよいが、周辺の景観を考慮すると白い屋根は避ける方がよい。熱やコストの問題から白を選択する事例が多いが、発熱量のデータがあれば説得力を持つので準備されるとよい。

(座長)

色彩など総合的に判断する必要はあるものの、照明柱を持たないケースⅠかケースⅡがよいという意見である。

屋根はメイン、バックとも対称形として整備するのが良いのか、ケースⅡのように一部のみとするのか検討が必要。ケースⅠには1案しかないが、ケースⅠは選択肢の一つとして考えてよいのか。

(事務局)

各案平等に検討いただきたい。

(委員)

ケースⅡでバックスタンド全面に屋根を架設する選択肢はないのか。オーバースペックかもしれないが、天守から見下ろした際に座席が見えることを考えると、将来的に座席の老朽化等により美観が損なわれた際に、屋根で隠すことも考えられる。

(委員)

競技場全周に架設することを想定しておられるのか。

(委員)

競技場全周に架設することも含めて検討されると良い。

(事務局)

ケースⅡは、メインスタンド全面とバックスタンド側の一部に屋根を架設すること

を想定しており、バックスタンド後方の通路部分には屋根を架けない仕様である。

(座長)

屋根の架設範囲に2通りの考え方があり、必要部分に限り架設する方法と、全体的に架設する方法がある。委員の意見としては、全体的に屋根が架設される方が良いということか。

(委員)

必ずしも全体に屋根を架設する必要はないが、建築基本設計条件を検討する際に、天守からの見え方について考慮いただきたい。単に必要最低限のスペックや経済効率のみで判断せず、こうした観点も考慮に入れていただきたい。

(委員)

彦根市としては、施設規模を基本計画の2万人収容から縮小することは問題ない。

屋根と照明柱については、基本計画に明示されており、競技場の高さは、屋根先設置照明の場合で2.3m程度だが、さらに施設の高さを抑えた場合は、野球場の照明柱3.5mを越える高さの照明柱が必要となることが課題とされている。

検討にあたっては、彦根城の歴史的、文化的な景観に配慮した建築計画が必要となるほか、競技場西側に近接する住宅地への光害に配慮が必要と考える。これらの理由から、景観への影響を抑え、光害の抑制が可能となるケースⅡが適当と考える。

(座長)

ケースⅠは、従来の基本計画の案であり、コスト面の課題がある。規模縮小を考えた場合、ケースⅡが良いと思う。照明柱を立てない整備が望ましい。片側が屋根先照明、片側が照明柱という事例もあるが、配光距離が合わないと思う。スタンド両側を屋根にする場合、両側とも同じ高さにすべきである。照明柱が景観上相応しくないことは明らかであり、上から見下ろしても下から見上げて支障となることは3DVRでも確認できた。この観点からケースⅡが適当と考える。

ここまでの議論とは少し離れるが、西側住宅地への配慮の観点から、競技場建築に際し植栽を含めた整備が必要。ケースⅡの場合、施設の高さは2.4mであり、1.0mや1.5mの高さの木を植栽することで圧迫感を緩和できるとしているが、競技場と住宅地との間に、公園内の人が見えないように2.5m程度の高さのマウンド(土盛り)を設置し、その上に植栽すると良い。土盛りにより木の高さも上がる。競技場の足元から全体を検討していただきたい。

委員の皆さん、他に意見はありませんか。

(意見なし)

皆さんの意見をまとめると、照明柱を設置しない形での整備となるケースⅠ、ケー

スⅡが適切と考えるので、事務局は、その方向で検討いただきたい。

(2) 色彩の検討について

- ・事務局から【資料4】(P29～P30)を説明。3DVRでケースⅡにおける屋根、座席、トラックの色彩イメージを表示。

(座長)

トラックの色は2色しかないのか。

(事務局)

メーカーによって異なるが、一般的に使用されているのは茶系と青系の2色である。

(座長)

トラックの色に基準は無いとのことだが、選手にとって、どちらの方が精神的に落ち着くなど走りやすいという特徴はあるのか。

(事務局)

青系トラックは真っ直ぐ走りやすく、記録が向上すると言われている。

(座長)

アスリートの感覚的なものだと思う。

確認になるが、屋根の面積は何㎡なのか。膜屋根の生産ロットが10,000㎡以上であることに関連する。

(事務局)

ケースⅡでメインスタンドが約5,300㎡、バックスタンドが約3,000㎡である。

(座長)

屋根面積が10,000㎡を超えないのであれば、膜構造の採用は難しい。

(事務局)

本日の資料は、イメージ図を基にした試算値を示しており、今後の設計で屋根面積は変動する。基本計画では5,300㎡の屋根を両側設置とすることで10,000㎡を超えている。

(座長)

膜構造で屋根に着色する場合、10,000㎡を超えないと製作できないことが課題である。

座席について、スタンド通路を境に上下で色を変えることは可能か。

(事務局)

本日の資料では提示できないが、そうした事例があることは承知している。

(座長)

座席をツートーンで整備することも考えられるが、本日の議論ではベースとなる色について議論させていただく。

(委員)

景観をCGによるシミュレーションに基づき判断することは危険。天守からの景観や周辺の建物の景観を写した写真に競技場を合成した資料が望ましい。本日の資料の範囲内で検討すると、屋根が白いと、周辺の昔ながらの街並みの中では屋根が巨大なものに感じられるので、明度を下げるべき。

色の議論をする際は、赤青茶といった色相ではなく、明度や彩度が重要であり、彩度が高いと目立ち、また、白のような明度の高い色は目立つ。明度や彩度をどこまで落とせるかが課題となるが、最大限に落とすと黒になり、却って目立つことになる。ある程度明度を落とすことで、周囲の緑と馴染む。近景や見上げた時の空との調和を図る際にも、明度をどこまで落とすのが課題となる。事業地は、日本的な屋根が続く地域であり、色味の無いグレー系だと無理なく馴染むのではないかと。

また、第3種陸上競技場と第1種陸上競技場の色が異なると、見下ろした際に違和感を生じるので統一すべき。先ほどトラックの青について説明があったが、景観色彩では青は嫌がられる色。多くの事例では彩度の高い青を採用しているが、これは自然界に存在しない鮮やかな青であり、空や水の色と異なる人工的な色である。青を採用するのであれば彩度と明度の低いものを採用すべき。紺に近い青であれば問題ないと思う。

先ほど青いトラックは真っ直ぐ走りやすいとの説明があったが、青は明度が低く、ラインの白は明度が高いため、コントラストが強くなることでラインを認識しやすくなり、結果的に走り易くなるのではないかと。赤系トラックは、赤も白も彩度が高く、ラインの認識性に劣るので、青系と比較すると走りにくくなるのではないかと。青系を採用しても良いが、鮮やかな青は良くない。自然な色を活かした整備が望ましい。

(委員)

彦根市は、景観計画を策定しており、当地域は運動場の手前までが彦根城を中心とした城下町の区域である重点区域であり、事業地は市街地景観ゾーンに指定されている。重点地域は、しっかりした色を用いるのに対し、隣接地域は、姿を消し周囲の景観と調和する色を選択することが望ましい。

具体的には、屋根は、いぶし瓦の色彩である淡いグレー、外壁は、淡いグレーか淡い茶系が望ましい。座席は、彦根城から見下ろした景観への配慮が必要であり、高彩度でない色が適している。彩度は6以下とし、自然界の彩度と同等の色が望ましい。

(委員)

彦根市の景観計画に配慮し、彩度6以下を尊重したうえで、色を選ぶことになるが、当地域では、彦根城のバッファゾーンとして城をリスペクトした色でなければならない。

確認したいのだが、当懇話会の場で具体的な色まで決めてしまうのか、城への配慮や自然界に近い色といった概念か、どちらについて議論するのか。

(事務局)

概念について検討いただきたい。

(委員)

設計者のクリエイティビティを尊重するためにも、最初から色を決めない方が良い。

競技場の事例ではないが、大阪城ホール屋根は、平らな黒っぽいテクスチャである。費用はかかっているが、周囲は石垣風で整備されており、城の周囲の施設としては存在感を抑えている。競技場の場合は難しいが、自然界に近い色で、彦根城をリスペクトし、ボリュームを抑える形で色を決定すればよい。

トラックの色は、青と茶系の2色しかないのか。

(事務局)

一般的に流通しているのは2色だが、混色するので他の色も可能とメーカーから聞いている。世界の競技場には黒や水色の事例もあるが、やや高価になる。

(委員)

資料の事例写真は、きつい青で光沢のある色。事業地が元々内湖であったことを考慮すると水色もいいと思うが、きつい色であれば、他の選択肢を記録への影響や世界的な状況など全体的に考慮して選べばよい。この場で何色がいいとは言えない。

(座長)

色については、彩度を落として自然に近づけた色や、城をサポートする色が良いとの意見があった。屋根を白にした場合、周辺の景観に合わないとの意見があったが、膜構造の屋根は着色が難しいので、金属系の屋根で景観に配慮した色を採用することが考えられる。具体的には、いぶし銀で彩度6以下が望ましいとの意見があった。その他の意見では、見下ろした際にスタンドが意外によく見えるとの意見があった。

(委員)

資料 P25 の写真（天守からの景観）でもスタンドがよく見えている。

(委員)

県立大学のように地域の色を取り込むことで、周辺の景観に馴染むこともある。

(座長)

県立大学のホールは、琵琶湖周辺の自然にある色を用いることで周囲から目立たない。

(委員)

滋賀大学校舎の外壁は、くすんだ緑で良い色だが、競技場に適した色かは判断できない。キャンパスの中にあるタイル貼りの建物であり、テクスチャが違うので判断が難しい。屋根全面を滋賀大学同様の緑にしてよいとまでは言えない。

(委員)

施設を緑化できると良い。

(座長)

緑化は、重さやメンテナンスの面で難しい。他事例では施設全体が土に埋まるような競技場もあるが、懇話会の方向性としては、自然に近い、彦根城をリスペクトした色とし、この方向性を設計者に伝えていただきたい。

(3) 自然素材の活用、歴史的景観の再現等その他外観の検討について

・事務局から【資料4】(P31)を説明。

(座長)

本件については、建物に限らず外構を含めて議論いただきたい。

(委員)

確認したいが、自然素材の採用について、仕様書上どの程度反映できるのか。具体的に記載できるのか。

(事務局)

「自然素材を積極的に活用すること」など、仕様書にどのように記載するのか今後検討したい。

(委員)

自然素材は、擬石や擬木といった作り物ではない本物を使用していただきたい。

(座長)

彦根市は、金亀公園の整備を計画されており、関連性を持たせると良い。自然素材には石もあるので、石を一部に使用するのも良い。ガラスや樹脂系の素材は望ましくない。

(委員)

無かったものを在ったように作るのは良くない。自然にある本物を採用いただきたい。

(委員)

穴太積みや舟板塀は、必ずしも建物に使用する必要はないが、エントランスなど象徴的な場所に採用すると良い。費用の制約がある中でも本物の素材を使用することは重要であり、彦根城との連続性を考慮して整備すべき。

県が木材利用を考えているのであれば、仕様書は、「木材を積極的に活用すること」程度の記載でよい。木材の利用により優しさや美しさを印象づけられるが、設計士に委ねる仕様とすることで、設計士からアイデアが出てくる。

日本建築士会連合会が国立競技場への木材使用について提言されている。競技場における木材利用の考え方について参考になると思われる。

(委員)

周辺の施設やペイジメント（舗装）も重要。路面にインターロッキングの派手な色がつく事例があるが、ストリートファニチャー（街灯など）や遊具の整備の際に、その場に合わないものを整備することのないよう、駐車場や駐輪場、休憩所等を含めて一緒に検討していただきたい。

緑化についても、地域の植生を予め提示し、設計者が取り入れ易いよう準備すると良い。

木材や石の利用は、本物を使用すると同時に、駐車場の車止めに地域の産物を使用するなど少しの工夫が重要。ディテールが重要であり、ディテールに配慮した整備が必要。

(委員)

設計者に与える情報として、想定するイメージや、滋賀や彦根に特有の材料やデザインについての写真集や資料集を参考に用意すると、設計者にイメージを持ってもらい易い。周辺の景観について仕様書と別に情報発信すると、より意図を汲んでもらえ

る。紅殻格子など彦根特有のものの資料を示すとよい。

(座長)

木材の利用では、座席を全て木製にすることも考えられる。メンテナンスや耐久性に難点があるが、仮設的に数多く製作し、国体開催後に伊勢神宮など余所に提供すれば環境先進県としての滋賀を示すことができるので、こうしたことも含めて検討いただきたい。

自然素材に本物を用いるという点で各委員の意見は揃っている。発注にあたっては、方向性を示すことで設計者に滋賀や彦根について学ぶきっかけを設けるとの意見があった。設計者は事前に勉強してくるものだが、発注者としてズレが生じないよう最初から発信することを検討いただきたい。

(委員)

今回の議題に含まれないが、大型映像装置は景観上の影響が大きい。設置位置等は景観への影響を含めて検討いただきたい。

(座長)

大型映像装置は、現案では北側に設置されているが、南側であれば彦根城に大型映像装置の背中を見せることになる。設置位置について基準はあるのか。

(事務局)

設置位置の基準はなく、スタート側、ゴール側それぞれ設置事例がある。

(座長)

映像がチラチラ見えない方がよい。見え方として広告と同様の考え方があるのではないか。

(委員)

彦根市ではサイン計画や屋外広告物条例を制定しており、重要な課題と考えるので参考にしていただきたい。

(4) 植樹、土盛り等競技場周辺整備の検討について

- ・事務局から競技場周辺の植樹や土盛り等の周辺整備について趣旨を説明。

(座長)

資料はないが、ランドスケープデザインについて、ペイブメントを含めて議論いただきたい。公園のイメージに緑豊かな公園というものがあるが、委員の皆さんが気づかれた点について意見をいただきたい。

(委員)

競技場周辺のサイン計画は重要である。駐車場は屋根の無い平坦なものか。

(事務局)

駐車場に屋根はない。

(座長)

駐車場は、透水性舗装や緑の配置により動線に日影を作るなど配慮いただきたい。

プロムナードの植栽は方向性を示しているが、他の箇所は、ただ木で囲んでいるように感じる。均一に植樹するのではなく、メリハリをつけた方が自然なものとなる。

一番気になるのは、建築とランドスケープの発注方法であり、別に発注することで、それぞれが主張しては整合性を確保できない。その辺りを県はどのように考えているのか。一緒に発注すべき事項であり、不安を感じる。

(事務局)

第1種陸上競技場とランドスケープは別発注で考えている。第1種陸上競技場設計における周辺整備の範囲については今後検討するが、基本的に別発注である。競技場の設計より公園の基本設計が先行しているが、公園の基本設計において懇話会の意見を反映させることで齟齬の生じないようにしたい。

(委員)

公園の設計者は決まっているのか。

(事務局)

公園は基本設計中である。建築の基本設計は公園より遅れる形となる。

(委員)

公園の設計はコンサルが受注しているのか。

(事務局)

土木系のコンサルに委託しており、建築系の業者ではない。

(座長)

建築と公園でズレが生じることになりかねない。

建築と公園を1本で発注すれば全体のバランスが取れる。

(委員)

公園側が建築側の意見を受け入れればバランスを取ることは可能。公園の施設配置決定時に競技場のデザインを取り込んでいくことで解決できないか。

(事務局)

建築の方が設計に時間を要するので、公園の設計の中で競技場周辺の整備について懇話会の意見を反映させたい。

(座長)

本日の意見は、建物の外部に及ぶものである。建築だけでは反映できない意見もあるので公園の設計で反映させていただきたい。

(委員)

建築の設計ができるまで摺合せはできない。建築設計が決まった段階で公園の設計がどの程度変更可能となるのか整理が必要。

(委員)

建築と公園をコーディネートするには全体を統括する人を置くしかない。現場の最後まで調整が必要になる。権限をもって統括できる人の配置が重要。

(座長)

照明設備やペイジメントを含めて全体的な検討が必要。

(委員)

人事異動で担当者が替わると調整できない。最後まで全体を統括することが重要。

(座長)

全体を繋げる役割が重要。これにより全体のバランスが取れる。事務的に処理すると、その部分だけ解決することになり、全体のコントロールができない。彦根城の世界遺産登録の面からも、違和感のない誇れる施設となるようコントロールが必要。

(委員)

警察協議やゴミ問題で後から問題が生じる事例が多数ある。組織で対応していかないとイメージを維持していけない。

(座長)

トータルで進めていただきたい。

(5) 金亀公園との連絡橋について

- ・事務局から【資料4】(P32)を説明。彦根市作成模型を展示。

(座長)

連絡橋の位置は決まっているのか。

(事務局)

想定する連絡橋は、県道から6.5m程度の高さ。バリアフリー法との関係からスロープは勾配5%以内で整備する必要があり150m程度。アプローチ部分を公園の動線とどのように繋げるのか検討した結果、先に説明した位置での整備を検討している。

(委員)

県と市どちらが整備するのか。

(事務局)

県市共同で整備する。

(委員)

こんなに長い橋梁が利用されるのか疑問に思う。

(座長)

連絡橋の横幅はどの程度か。

(事務局)

模型は6mで作成している。

(委員)

現在の歩道橋はどうなるのか。

(事務局)

撤去する予定である。

(委員)

道路に下りる際はどうなるのか。

(事務局)

県道に直接下りられるよう階段を設置する。

(委員)

スロープを無くし、エレベーターのみとすることは出来ないのか。あまりに長大に感じられる。

(委員)

どういう人が利用すると想定しているのか疑問に思う。

(委員)

ランニングにはいいかもしれない。

(座長)

都会であればエレベーターを設置するだろうが、この場合は階段とスロープの組合せとなる。

(委員)

金亀公園は、どのような整備を検討しているのか。

(座長)

多目的広場などを整備し、県市の公園を連絡橋で繋ぐことになる。

(委員)

市の金亀公園と県の公園を一つの公園として整備するために必要。

(委員)

通常の歩道橋では問題があるのか。

(事務局)

公園間を直接行き来できる橋梁が必要となる。

(委員)

競技場と同時に設計してもらえるとよい。

(委員)

現歩道橋を利用することはできないのか。

(委員)

現歩道橋は老朽化が進んでおり、幅が狭いため、拡幅して整備したい。

(委員)

歩道橋の付け替えではいけないのか。

(委員)

高い位置に橋を設置できる機会である。歩道橋からの景観も重要であり、新たな眺望場所になりうる。

(委員)

できるだけ構造物は無い方が良い。景観を分断するものになる。

(座長)

ランドスケープと合わせた検討が必要。

(委員)

スロープは、マウンドの一環として作ると良い。

(座長)

スロープの半分まで土盛りをし、その後に鉄骨が出てくる形の整備も良い。

(委員)

スロープの下はゴミ等により汚くなるのでマウンドにすべき。

(委員)

山に登るようなイメージで整備すると良いのではないか。

(委員)

軽い橋とするか、大手門のように整備する方法も考えられる。

(委員)

軽いものが望ましく、昔に無いものは望ましくない。公園整備と一体的な提案をいただきたい。

(委員)

連絡橋の設置位置は決定しているのか。

(事務局)

公園とのアプローチを考慮すると、この位置が適当と考えている。

(座長)

大げさな施設とならないよう配慮が必要。当初はシンガポールの橋のように緑化した橋を考えていた。

(委員)

日本では植物が育たないのではないか。

(委員)

道頓堀の浮庭橋はヘデラ（つる性樹木）が垂れて気持ち良い。

(座長)

連絡橋は、公園同士を一体的に整備するために必要な施設と考えてよいか。

(事務局)

今後の金亀公園との一体的な利用を考えると、観光用として駐車場と彦根城を歩き来していただくなど、多数の方に利用いただきたい。

(座長)

金亀公園の整備は、人の流れを考え、駐車場を図書館裏に移す方向で検討しているため、連絡橋はこの位置となるが、構造物が大掛かりでスロープが長いので、マウンドから橋に繋がるランドスケープデザインを検討いただきたい。

審議事項等全般

(座長)

屋根の架設範囲と照明設備の検討については、照明柱のないケースⅡの方向でよいか。屋根の架設範囲を大きくするとか、スタンド両側の屋根の高さを揃えるというのも一つの方向性である。余分な部分を削る方向で検討し、一部屋根とする場合は、デザインを尊重してまとめていただきたい。

全体として、次回の懇話会で意見をまとめる必要があるが、今回で議論すべき追加案件はあるか。

(委員)

植樹と土盛りについて、建物だけの発注となるのか、周辺整備と合わせて発注できるのか整理が必要。双方が関連するのであれば懇話会の場で検討すべき。

(座長)

建築とランドスケープは本来一体のもの。周辺地域にそぐわないものがないよう検討いただきたい。

(委員)

建築の設計者には建物周辺はこうあって欲しいという考えがあるので、最初から整合を図るべき。

(座長)

発注時に業者からの質問が予想される。生活環境への配慮からも西側住宅地と競技場との間にマウンドで壁を作るべき。狭い区域であるので、想定しているものと違うものができると修正が効かない。双方の整合性を詰められる体制作りが必要。

事務局は、第3回懇話会に向けて、今回の意見を受けて内容ある案をまとめていただきたい。

4. その他

- ・今後の日程として、第3回懇話会を7月29日に開催予定。

5. 閉会

以上